

【研究シーズテーマ】

包絡分析法を用いた 多面的評価フレームワーク

 情報学部 情報コミュニケーション学科 准教授 **井上 和重**


Keyword

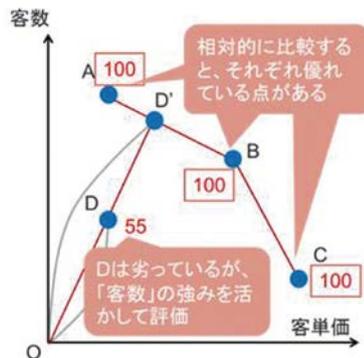
意志決定／包絡分析法／多面的評価

 12 つくる責任
つかう責任

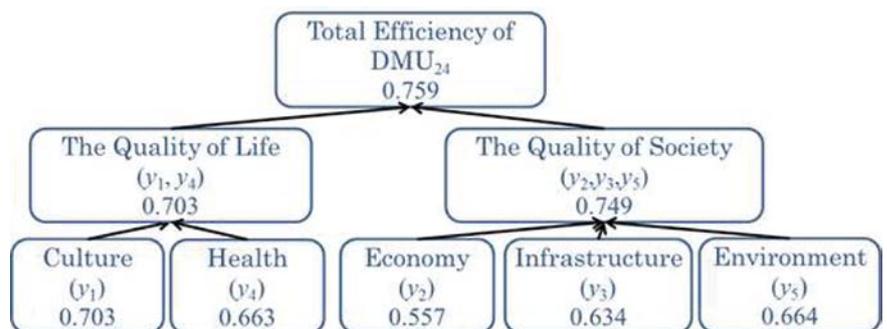

【研究シーズの概要】

近年、さまざまな分野でデータの取得・蓄積が可能となっています。だからこそ、「評価対象の特徴」を相対的に比較した評価が重要であり、そのための分析手法が「包絡分析法」です。私たちは包絡分析法を元に「どの項目群にどの程度の特徴があるのか」を可視化するフレームワークを開発しました。これにより、複数の評価対象の特徴を相対的・多面的に比較した結果を、図から容易に読み解くことが可能です。

◎包絡分析法の概要



◎各国住みやすさデータに対するフレームワークの適用例



【新規性・独自性・従来研究(技術)と比べての優位性】

- 各評価対象を、自身の強みを考慮した評価軸で評価することができます。
- 多面的に評価した際の特徴を一目で把握することが可能です。
- さまざまなデータに適用することが可能です。

【産業界での展開・用途】

- 国・地方自治体・企業・大学などの組織評価
- 小売業における購買データに基づく商品分析
- 工数やエラー率などに基づく、プロジェクト評価

連絡・問合せ先

 広島工業大学 研究支援機構 〒731-5193 広島市佐伯区三宅2-1-1
 (事務窓口: 研究・地域連携支援部) TEL:082-921-4222 FAX:082-921-8963
 URL <https://www.it-hiroshima.ac.jp/for-research/office/> E-mail kyo-kiko@it-hiroshima.ac.jp